

# 山行報告

## ■伊勢山(353m)

●日 程：10月13日(月・祝日)

●参 加 者：A班 L上田 SL黒本 池田 石堂 敷田 古澤 村上 松本

B班 L春本 SL乙坂 岡田(淳) 田中(由) 橋本 平石 松田 矢根

●行動記録：こもれびの森 9:39 発～展望台(10:22 着)10:46 発～下り(ロープ使用)

(11:00 着) 11:35 発～神座の窟(12:15 着)12:25 発～伊勢山(12:36 着)13:05 発～近道分岐(13:55 着)14:00 発～こもれびの森(14:25 着)

## ◆行きたかった伊勢山

敷田

伊勢山は353メートルの姫路の北西部にある低山で岩場や神秘的な空間が広がる「神座の窟」がありテレビの登山番組で見て行ってみたいと思っていた山でした。

こもれびの森に駐車場が6台分、トイレもないでの片道50キロ朝早めに自宅を出発。10月になって少し暑さも和らいできましたが駐車場に着くと湿度が高く蒸し暑かったです。

体操を済ませ、西尾根コースから日陰の登山道を歩いて展望台に着くと姫路市街や遠く淡路島まで見え、ここからの景色が一番いいとのことでゆっくり休憩しました。広場には日付の掲示板があり誰かが毎日登ってきているみたい。

展望台からは急坂、急登がありロープが張ってありましたが劣化している為、リーダーが細引きのロープを張ってくださり一人ずつ降りていきました。しばらくすると天気予報では晴れだったのに急な雨。通り雨ですがザックと上着だけ雨具を装着、雨具で余計に蒸し暑い。

神座の窟に着くと雨もやみ岩穴から素晴らしい景色が広がっていました。ここが一番の絶景かな。

山頂は広場になっていて周りの木々が大きくなりすぎて展望は望めませんでした。

雨が降ったせいか、大勢の足音で下りは雨で濡れた落ち葉の間からヒルが沢山でてきました。前を歩いているMさんのズボンにヒルがひざの所まではい上がっていました。虫避けスプレーはまだ必要だったなど、油断していました。

計画書には歩行時間3時間半とありましたが下山時間は16時と書いてあるのを見逃していて岩場や急坂などがあり大勢で通過するには時間もかかり、険しい山でしたが久しぶりの山行参加は不安でしたが楽しい1日でした。リーダー、同行の皆さん有難うございました。



## ◆「伊勢山！！ すごいぞ！」

松田

「伊勢山」はお伊勢さんを思い浮かべ、穏やかな山を想像して行ってみたいと思った。

「こもれびの森」という駐車場&登山口に集合した。良いところだなあと思った。でも、参加者の中に地元の方がいて「どんな山？」と尋ねると、「なだらかなところもあるけど、下りが急です」と聞いて、気を引き締めた。

16名が揃い、ストレッチをして2班に分かれて出発した。なだらかな歩きやすい平地が続いた。

案内版もたくさんあった。脇の木に鉄板と棒が吊りさがっていたので、叩いてみる。大きな音が響いた。熊よけなのか？またまた、緊張する。

そうしているうちに、1時間程で「展望台」につく。今日10月13日の看板があり、毎日登っている方がいるのだと思った。祝日は国旗が掲げられるとも聞いた。すごい。

そこから見る景色は姫路市街地や家島、小豆島までよく見えた。不思議と近くに見えた。楽しくおしゃべりしながら風景を見ていたら、リーダーから「今から急な下りがある。ロープが張ってあるが、劣化しているので、持ってきた細引きを2本繋ぐ。それを1人ずつ持って降りること」と言われた。またまた、緊張が走った。見てみると本当に急な下りでドキドキしたが、前の人の様子を見てゆっくりと降りた。全員無事に降りてホッとした。

山頂を目指しながら何ヶ所かのロープのある岩場や下りが続いた。頂上は、まだかと思っていると大きな岩が現れた。「神座の窟（かみざの いわや）」という。その中に入るには急な下りで、怖かったけど、降りて岩の中に入った。そこからの景色は額縁に入っているよう最高だった。疲れが吹き飛んで、頂上まで頑張れた。

353メートルの頂上は周りの木が大きくて、先ほどの展望台のように景色は見えなかつた。残念！その頂上でちょっと遅い昼食をとる。



それからは下山で、変化にとんだ山道を下った。滑りやすいので、気をつけながら歩いていると、リーダーから「近道があるが、どうする」と提案があった。ほとんど全員が近道に賛成ということで、近道をして帰ることになった。急登が多く、1人ずつロープを持って降りたり登ったりしたので、時間がかかったこと也有ったのだろう。

近道の分かれ道からはすぐに出発したところの「さくら広場」に着いた。私には、丁度よかつた。ストレッチをして、「ヒル」がついてないか確認してからの解散でした。

登っている途中、ちらほら紅葉しかけているところもあった。今回は足元ばかり見ていたので、あまり周りを見てなかつた、余裕を持って景色を堪能できるようになりたいと思った。次回は広場の名前にもなっている桜の頃に挑戦したい。

伊勢山は穏やかだけではなく、厳しさを持ち合わせている山で、トレーニングには丁度いい山だと思った。

細引きを2本繋いで木に結び、そのロープを持って下りる『ロープの訓練』や『岩場の上り下りの仕方』など教えてくださったリーダーありがとうございました。ご一緒した皆さん、楽しかったです、ありがとうございました。

## ■諭鶴羽山(アサギマダラに会う)

●日 程：10月18日(土)

●参 加 者：A班 L中村 SL須増 大谷 河合 田中(重) 田中(由)

橋本 松本

B班 L平井 SL矢根 池田 古澤 笹木 村上 山本(清)

C班 L安田 SL黒本 石堂 泉 尾越 佐野 林

●行動記録：諭鶴羽ダム登山口(8:30 着)8:45 発～諭鶴羽山山頂(10:33 着)～諭鶴羽神社(10:50着)11:45発～諭鶴羽山山頂(12:05 着)12:08 発～諭鶴羽ダム登山口(13:45 着)



## ◆やっと会えたね、アサギマダラ

尾越

摩耶山天上寺で「旅する蝶アサギマダラが飛来」との神戸新聞の記事を読み、アサギマダラに会えるのを楽しみに参加申込みした。記事によればアサギマダラは「広げた羽は10センチほどで、半透明なあさぎ色（青緑色）の模様がある。春から夏に涼しい北方で過ごし、秋になると沖縄・南西諸島や台湾へと南下していく」とのこと。リーダーから計画書と共に諭鶴羽神社の起りとなるくにうみの神話やアサギマダラの資料を頂いた。

今回は久々のマイクロバス利用、22名の参加者で満席だった。集合場所の山電飾磨駅、JR加古川駅を出発後、霧雨の中に虹が見えた。曇り空だが幸先の良い兆しを感じ気持ちは明るくなった。今日の行程は諭鶴羽ダム登山口から裏参道と呼ばれるルートを山頂へ登り諭鶴羽神社でアサギマダラに会い、来た道を戻りダム登山口に下りる。

ストレッチを済ませて霧雨の中、3班に別れゆっくりとしたペースで登山口から斜面を登る。神倉神社辺りからは歩きやすい登山道が山頂へと続く。「雨が降るとアサギマダラは飛ぶのかな」や「風が吹けば飛ぶの」と皆アサギマダラで頭が一杯だ。それ違う人にアサギマダラのことを尋ねると「いるよ」との言葉を聞いて嬉しくて足取りも軽くなる。山頂を通過し神社へ着



くとアサギマダラが人目を気にせずフジバカマの蜜を吸い優雅にフワフワと軽やかに飛び回っていた。諭鶴羽神社公式HPによると10/18は500頭（目視による概数）との報告があり、天気が良いほど多いようだ。アサギマダラはキジョラン（鬼女蘭）に卵を産み幼虫はキジョランを食べサナギになり成虫になるそうだ。キジョランとフジバカマを栽培しアサギマダラの繁殖に取組んでいると書かれていた。

翅に（マヤ山 9/30CTM）とマーキングされた蝶を参加者の方が見つけた。はかない羽のどこにそんな力があるのかと不思議に思う。



アサギマダラに会えたことに皆満足し青空の下登山道を折り返し下山した。バスに乗車し美菜恋来屋で淡路島特産物のお土産と共に帰路についた。お天気の判断や出発前日バス会社が変更となる等リーダーのご苦労があったと思う。リーダーと参加者の皆様ありがとうございました。アサギマダラに会えた楽しい一日でした。

## ◆諭鶴羽山でアサギマダラに出会った～

松本

私には日帰りでは初めてのバスをチャーターしての山行だったので、旅行気分でとても楽しみにしていました。ただ、週末には雨が降ることが続いていたので、天候がなんとも心配でした。当日は、どんよりとした曇り空ではありましたが、雲の切れ間からは光も射し、虹も見えたのでホッとしながら目的地へ向かいました。ところが、諭鶴羽ダムに着いたとたん雨が降り出し、あわてて合羽を着てストレッチをし、3班に分かれて登山口へ。

のぼり始めこそ傾斜がきつかったけれど、ほとんどがよく整備された、歩きやすい登山道でした。ただ展望が開けるところがほとんどなかったことが少し残念でした（あったとしても、霧で何も見えなかっただろうけど・・・）。

途中、私がアケビを食べたことがないという話になり、アケビの実を見つける度に「採れるかなー」とか「あれはまだ食べられないよ」とか言いながら採ろうとしてくださいました。

雨は、止んだかと思うとまた降ったりして、結局、諭鶴羽神社に着くまで合羽を脱いだり着たりでした。こんなに雨が降っていたらアサギマダラは飛んでいないかもと心配しましたが、それ違う人に「チョウは飛んでいましたよ」と教えていただき、ワクワクしながら先に進みました。

諭鶴羽神社に到着すると、フジバカマのなんとも表現し難い、甘ったるいような香りが漂っていて、その周りを無数のアサギマダラが飛び交っていました。オスとメスの見分け方や、ほとんどがオスだということを教えていただきました。人懐っこい(?)チョウで、指を近づけても逃げる素振りがありません。そのせいかマーキングされた個体もいました。

休憩所で昼食をいただき、思う存分アサギマダラの姿を堪能した後、ピストンで来た道をもどりました。下山時には雨も止み、青空がみえていました。

帰りのバスに乗り込み、途中「美菜恋来屋（みなこいこいや）」に寄り、お土産を買ったり、温かいコーヒーを飲んだり、冷たいソフトクリームを食べたり・・・。とても充実した一日でした。ありがとうございました。

追伸：今度は快晴の中を歩きたいな・・・



## ■蛇谷北山(芦屋市・最高峰)840m

●日 程：10月19日(日)

●参 加 者：L春本 SL徳本 池田 喜田 田坂 船本

●行動記録：東おたふく登山口 10:20 発～土桶割峠(11:00 着) 11:10 発～蛇谷北山(11:25 着)

11:45 発～東おたふく山(12:20 着) 12:30 発～雨ヶ峠(13:00 着) 13:05 発～風吹き岩(14:05 着) 14:20 発～ロックガーデン(15:05 着) 15:10 発～芦屋川駅近くの公園(15:35 着)

### ◆雨上がりの下山訓練

喜田

私がこの山行に参加したのは、募集案内の「下山に重きを置く」が目に留まったからでした。もともと下りは大好きだったのですが、最近は膝や腰に痛みが出るようになって悩んでいたからです。

当日、芦屋川駅に待ち合わせの2時間前に着いたので、コースの下見がてらに東お多福山バス停まで先回りすることにしました。途中、携帯が圏外となりリーダーへの連絡が遅れてしまい、ご迷惑をおかけしました。

10時前に東お多福山バス停で6名全員がそろい、蛇谷北山を目指して出発です。山頂までは緩やかな登りで、日曜日というのに曇り空のせいか登山者はほとんど見かけません。



芦屋市の最高峰である蛇谷北山は、クマ笹のなかに一本の名札杭があるだけの静かな場所でした。ここから折り返していよいよ本日のお楽しみ(私だけの楽しみだったかも)の下山訓練です。雨上がりで岩の表面は濡れていたので、ほとんどの参加者が転倒防止にストックを手にされていました。

下山開始早々に行く手にヘビが現れましたが、T坂さんがヒョイとストックで道の脇に放り投げてくれました。今回は干支の己(ヘビ)にちなんだ山

だったの挨拶だったのかも知れませんが、あまり出会いたくないものです。

途中の東お多福山からは、大阪湾の全貌が見渡せて気分爽快でした。風吹き岩を過ぎると急な岩場の下りが続きましたが、全員足を滑らせてことなく滝の茶屋までたどり着きました。

芦屋川駅近くの公園で整理体操を行い、帰りは全員で夕食をとることにしました。春本リーダーに案内していただいたJR三ノ宮駅高架下の中華料理店「T一軒」は、薄味チャンポンとギョーザがとても美味しく五臓六腑にしみわたりました(大げさではありません)。

今回の山行では、ストックを活用すること、登山後の食事を楽しむことを経験しました。

リーダー、参加者の皆さんありがとうございました。また、山行の後に食事をしましょう。



## ■西宮山岳会と播磨地区山の会交流山行 平荘湖アルプス

●日 程：10月25日(土)

●参 加 者：1班 高御位 L 尾内 SL 森本 大谷 喜田

2班 高御位 L 須増 SL 黒木 木村 高井 徳本

3班 高御位 L 砂川 SL 安田 中村 西川 松本

西宮山岳会 11名 明石山の会 8名 HC はりま 6名 高御位山遊会 14名 計 39名

●行動記録：

1班・2班：ウエルネスパーク 10:20 発～小山(10:30 着) 10:35 発～行者山(10:40 着) 10:42 発～神吉山(10:55 着) 11:05 発～洞貝山(11:55 着) 12:05 発～黒岩山(12:50 着) 12:55 発～ウエルネスパーク(13:15 着)

3班：ウエルネスパーク 10:20 発～小山(10:35 着) 10:37 発～行者山(10:43 着) 10:45 発～神吉山(10:55 着) 11:05 発～洞貝山(12:10 着) 12:20 発～ウエルネスパーク(13:05 着)

下山後、ウエルネスパーク内レストランにて懇親会



### ◆初めての交流山行

西川

午前9時過ぎにウエルネスパークの駐車場に着くと、すでに何名かのメンバーが集まっていた。玄関前に移動して話をしているうちに他の会の方々も集まり、最後に西宮山岳会のメンバーがバスで到着された。今回は西宮山岳会 11名、HC はりま 6名、明石山の会 8名、そして高御位山遊会 14名の4団体 39名の大人数である。

森本さんのハードなストレッチの後 10時20分 A、B、C と 3班に分かれてスタートした。前回は平荘湖アルプスの7山、今回残りの5山を登る予定である。私は C班で砂川リーダーのもと一番目的小山を目指して出発する。土曜トレで何度か登っているがメンバーが変わると違った山に見えてくる。HC はりまの大向さんと話しているうちに小山に到着。2番目の行者山に向かう。HC はりまの藤井さんが私の知人の知り合いだとわかり話が弾むうちに行者山に到着



する。

そこから神吉山に向かう道端に何体もの祠があり信仰の山のようだ。3番目の神吉山に着くと大きな石碑があり日露戦争記念碑と書かれている。この前で全員の写真撮影、これから日本の平和を願わざにはいられない。そこから下り車道に出て4番目の洞貝山に向かう。ホラガイと書いてドウガイと読むらしい。途中池の土手からの少年自然の家「工作館」の眺めが素晴らしくしばらく見入る。そこから山道に入り12時過ぎに洞貝山山頂につく。休憩の後リーダーの提案で予定とは違うルートで降りようとの案が検討されたが、結局同じルートで帰ることになった。

5番目の黒岩山に向かうはずだったが道が外れたので、おかしいと言っていたらリーダーがショートカットをするために少年自然の家の敷地内を通過するルートを取ったようである。ここは侵入禁止で一度注意された経験があるのでひやひやしたが、無事通過。リーダーのおかげで？遅れを挽回でき一番早くウェルネスパークに戻ることができた。

全員戻るのを待ってレストランで会食をして団らんの時間を過ごせた。

個人的には労山の表紙の絵でお世話になっている蟹沢さん、大向さんにご挨拶でき有意義な山行でした。リーダーはじめお世話していただいた皆様、同行の皆様お世話になりました。また違う山でこういう機会があればと期待しています。



## ◆10月25日(土) 平莊湖5座交流ハイク(西宮山岳会&播磨地区山岳会)

### HC はりま 中井

当日の雨予報で県連の平莊湖5座交流ハイクはどうなるのだろうかと思っていましたが、前日の昼すぎに決行との連絡が大向さんからありました。そう言えば前回の平莊湖でも雨予報だったのが、全員揃い歩き始めた頃には雨も上がり、カッパも着る事なく山登りが出来たのには、県連の方の情熱が優っていたのだと感心しました。今回もそうでした。西宮山岳会の方々が揃い、開会式、そして高御位山遊会の森本さんのストレッチ、10分かけると言っておられ、それはそれは全身に効果あり、それだけで身体が暖かくなり、楽しみにしてたものでした。

平莊湖は会でも計画しますが、今回は反対からのコースであり、山登りを始めた頃によく登

つていたなと懐かしくもありました。班も3班に分かれていて、他の会の方とも交流出来、充実した1日でした。計画して下さった高御位山遊会の皆さん、ありがとうございました。地元加古川の良さが再発見出来ました。

## ◆播磨地区山岳会と西宮山岳会の交流を深めながら安全に楽しく歩く。

平莊湖アルプス第2弾！

西宮山岳会 関口

お天気が心配でしたが、結果的には、曇り時折日が差す絶好の山日和でした。前回5月の平莊湖アルプス企画の第2弾で、12座中残り5座の踏破企画でした。低山ながら、急登あり、岩場あり、瀬戸内の眺めよしの楽しいコースでした。100mほど登っただけで、周りを見渡せ高度感を感じられて、なんかお得。他の会の方との登山は初めてでしたが、みなさん小規模な会ならでは、とってもアットホーム。やっぱりみんな山が好き。食事しながらもいいけど、登山中の話も盛りあがりますね

高御位山遊会のリーダーの方は、4回も下見してくださったそうです。帰りは、加古川駅まで車で送って頂きました。温かいおもてなし心に沁みました。次回は西宮山岳会主催でお招きも企画されているようです。つまずいても転倒しないための体幹を鍛える準備体操。かなり効く&気持ちよくて 体験の価値あり。次回も楽しみですね！

## ■菊水山・鍋蓋山

- 日 程：10月27日(月)
- 参 加 者：L藤本 SL平井 兼本 古澤 山下(永)
- 行動記録：鷦越駅 8:45 発～石井ダム(9:35 着)9:50 発～菊水山(10:55 着)11:05 発～天王吊橋(11:40 着)11:45 発～鍋蓋山(12:20 着)12:50 発～大竜寺(13:20 着)13:30 発～市ヶ原(13:45 着)14:00 発～布引貯水池(14:20 着)14:25 発～見晴らし展望台(14:35 着)14:45 発～新神戸駅(15:10 着)

## ◆山行感想文 菊水山

山下(永)



秋空のもと鷦越駅に集合し、リーダーより今回の説明をうけ、軽いストレッチをしたあと、9時の出発。まずは、3km先の石井ダムを目指します。六甲縦走路に近接していて市民の憩いの場所となっているそうです。堤体につけられた300段の階段は、折り返し階段となっていてひたすら登ります。登り切った先に見られる風景は、ダム同様雄大でした。次に菊水山の向かい側にある名(妙)号岩の壁面に大きく刻まれた「南無阿弥陀仏」を拝見。この文字は、約150年前に極楽寺和尚が旅人の安全祈願の為、一字が1.3m角の字を彫られたと看板に書いてありました。そして、六甲山系菊水山の登山入口へ。

今回は菊水ルンゼの隣の尾根を登りますが、入り口には何の目印もなく、登山道も道なき道を歩くので、リーダーに付いて行かないと道がわからなりません。岩場の多い道を登り切り458mの山頂にたどり着き、心地よい秋風に癒されながら小休止。神戸の街並みや瀬戸内の素晴らしい景色を楽しんだ後、天王吊り橋まで下山して今度は向かいの2km先の鍋蓋山を目指します。六甲全縦走路の中でもキツイ登山になると聞いていましたが、本当にその通りで大きく下ったあとすぐに鍋蓋山の急な登り返しが待ち受けていました。標高のグラフでV字型に見えるほど短い間にかなりの標高差を上り下りすることで一気に体力が消耗しました。急な岩場を過ぎてやっと歩きやすい遊歩道の道に変わり、486mの山頂にたどり着きました。ここで神戸市街地の絶景を眺めながら昼食。



鍋蓋山からは、ひたすら下山。再度山の大龍寺の山門前を通り、市ヶ原の河原へ出ました。そこから桜茶屋へ向かう階段を数段上がった時に、両足がつって強烈な痛み。初めての経験に驚きましたが、同行しているメンバーの方々から足がつった時の対処法を教えてもらい、数分もしないうちに回復。ここから縦走路と別れて布引貯水池、布引雄滝を経て見晴らし台に到着。ここで軽くストレッチをして、夫婦滝、鼓ヶ滝、布引雌滝を眺めながら新神戸駅へ。ここで解散となりました。

私はまだ山行歴が浅く経験が少ないですが、今回の登山は、とても厳しい登山だったように思います。でも、メンバーの温かさや山頂での素晴らしい眺め等思い出に残る山行になりました。リーダーをはじめメンバーの皆様、お世話になりました。

## ■丹沢山(たんざわさん)

- 日 程：10月30日(木)～11月1日(土)
- 参 加 者：L島谷 SL尾内 稲見 笹木 徳本 春本 村上
- 行動記録：

(30日)：姫路駅8:11発～渋沢駅(12:13着)～大倉登山口13:10発～見晴茶屋(14:20着)  
(31日)：見晴茶屋7:20発～塔ノ岳(11:20着)12:05発～丹沢山(13:50着)みやま山荘泊  
(1日)：みやま山荘6:00発～不動ノ峰休憩所(6:55着)7:00発～鬼ヶ岩ノ頭(7:50着)  
～蛭ヶ岳(8:35着)9:15発～姫次(11:05着)11:20発～八丁坂ノ頭(11:40着)  
11:45発～釜立林道ゲート(14:05着)～東野バス停(14:40着)～橋本駅～新横浜  
～姫路(21:30着)

## ◆富士山満喫！！ 丹沢山山行を終えて

稻見

山小屋泊の経験はあまりなく、どんな所かどきどき。あれこれリュックに入れるとパンパン状態で、重さは10kg程。こんなに重くて登れるのかと思っていたところニュースを見て心配し

た家の者からクマアラームなる物をプレゼントしてもらいさらに荷物が増える。

10月30日姫路駅8:11発ひかりに乗車、前日の仕事疲れもあり新幹線で寝てしまっていたようで熱海駅で下車の為起こしてもらい、こだまに乗り換えて電車・バスを乗り継いで大倉登山口に到着。電車遅延の為遅れて到着する方を待ち2班に分かれての出発、私は後発班となった。13:55 大倉登山口を出発、登り切るとなだらかな稜線。横幅の広い歩きやすく気持ちの良い道で、宿泊の見晴茶屋まで2.3km登り340m 1時間程の山行でした。15:10頃到着。見晴茶屋の食事は最高で、美味しいし量も多い。何より夜のお酒飲み放題付（ビールは1本まで）飲まない人はペットボトル（水かジュース）2本サービスと大判振る舞い。ビール・ハイボール・梅酒と計5杯飲んで大満足。皆さんによると「こんな山小屋はない。これが普通と思ってはいけないよ。」と。寝室は雑魚寝で、パーテーションで区切られていきましたが、他のお客さんはいなかったので、気を遣わず寝られ助かりました。

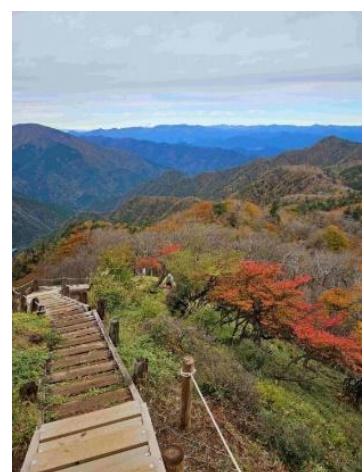
2日目 見晴茶屋を7:20頃出発。9:01掘山の家あたりから富士山が見えだす。そこから花立山荘を越え塔ノ岳までが急登で、ずっと木道の階段が続く（別名バカ尾根と呼ばれている）

11:25頃塔ノ岳に到着、急登の疲れが吹っ飛ぶくらいの眺望で富士山を目の前にしての昼食は最高でした。13:40頃丹沢山到着。2日目宿泊のみやま山荘は丹沢山山頂すぐそばで、小屋（山荘）に入ってから天候が悪くなり外は大雨。夜中は暴風雨の様子。山行時間6時間程、距離6.7km、登り955m位。

3日目 6:00頃出発（完全に雨は止み晴天）。左手に大きな富士山、背中側には房総半島・三浦半島、右後ろには東京都のビルが見えスカイツリーも見える良い天気でした。8:30頃蛭ヶ岳、神奈川県最高峰の山で休憩。富士山も見る角度によって表情が変わって見えます。11:12姫次（1433m）休憩。その後は東野バス停まで下りばかりで疲れますが、紅葉が綺麗で気を和ませてくれます。14:50頃バス停に到着。山行時間8時間40分、距離12.5km、登り565m下り1729m。バス停前のトイレで自然に水が出る事に感動。山小屋で水が使えない事が普通のようになり、水の大切さを感じました。

### ★今回の山行で勉強になった事

- ・リュックの荷物は少なく  
(重いだけではなく物を出す時や整理するのに時間がかかる)
- ・持ち物には全て名前か印を付ける  
(山小屋では人の物と間違える事がある)
- ・山小屋では水は貴重なもの、蛇口はまめに閉める
- ・団体行動の為時間厳守  
(余裕をもって準備する事)
- ・小銭・千円札は多めに持参  
(山小屋では出来るだけ釣銭がいらない様に)



心配していた天気も山歩きしている時は良く、富士山・夜景・星空・紅葉・料理・お酒、1つの山行で3つも4つもご褒美を貰えた感じで「来て良かった」と心から思える山行でした。リーダーはじめ皆様にはとてもお世話になり、山歩きしているつど緻密な計画を立てられている事が良くわかりました。感謝しています。ありがとうございました。今回の経験をいかし、また泊り山行にもチャレンジしていきたいと思います。

## ■段ヶ峰

- 日 程：11月1日(土)
- 参 加 者：L木村 SL山本(清) 西川 古澤
- 行動記録：生野高原登山口 8:30 発～達磨ヶ峰(9:30 着) 9:35 発～フトウガ峰(11:25 着) 11:30 発～段ヶ峰(12:15 着)  
13:00 発～フトウガ峰(13:40 着)～達磨ヶ峰(15:05 着)  
15:10 発～生野高原登山口(15:45 着)



【センブリ】

### ◆懐かしの段ヶ峰

西川

段ヶ峰は山登りを始めたころ厳冬期に何度か登ったことのある懐かしい山で、山遊会に入会してからも一度行っているが手元に資料が残っていないので、いつ行ったかは不明だ。朝6時前に車で出発したが姫路バイパスは濃霧で前方が見えにくく不安であったが、播但道に入ると霧も晴れて雲海が家々の上にかかり美しい風景が広がっていた。

市川パーキングエリアで合流して8時10分に登山口に着く。8時30分ストレッチの後クマよけの鈴をつけ出発する。最初からキツイ登りで、その上昨日の雨で滑りやすい道を苦戦し



ながら登る。山道に動物の足跡が続いている、クマかシカそれともイノシシ? 結局シカということになったが少し不安。それでもリンドウの花が群生していたり、触ると頂部から煙のような胞子を飛ばすホコリタケを見つけながら9時30分912.7Mの達磨ヶ峰に到着。ここからフトウガ峰までが一番長い行程で、ススキの原を眺めたり、30センチもある巨大ミミズにおどろかされたりしながら10時過ぎ林の中で小休憩。Fさんがコグラだと指さすほうを見ると、高い枝の周りをくるくる回りながら餌をついばむ小鳥が見えた。小型のキツツキのことでのなかなか見ることがないらしい。

10時40分最低コルを通過し、11時15分フトウガ峰に到着。周囲に遮るものがないので見晴らしが良く、風も強い。厳冬期には木の枝にエビの尻尾を見る事ができる。そしてはるか先には段ヶ峰の堂々とした山容が横たわっているのが見える。段ヶ峰まではなだらかな道が続き快適な山歩きだ。途中マウンテンバイクを押してこちらに来る男性に会ってびっくりする。どこから登って来たのだろう？

12時14分山頂到着。若いカップルの先客がいて女性の方が”ヤッホー”と叫んだ。なにか懐かしい感じが



した。ここで食事をしていると見知らぬ人から焼き芋の差し入れがあった。4つに分けていただく、アツアツでおいしかった。頂上からは北播磨の山々が一望でき、笠形、千ヶ峰など懐かしい山々が迎えてくれる。集合写真を撮り13時に出発し、同じ道を帰路につく。途中最低コルで左足に痛みが走りスプレーをしていると、太ももがつりだし薬をもらってしばらく休むとなんとか治まつたので出発する。いつの間にか傾きかけた太陽に照らされたスキの穂が輝いている。空には大きな虹がかかり元気づけてくれる。ぬかるんだ坂道で何度かこけながら15時45分登山口に降りる。

今回はハードな山行でしたが、山の紅葉、焼き芋、虹を見ることができ秋の一日を楽しませていただきました。リーダーはじめ同行の皆様お世話になり、ありがとうございました。

## ■由布岳(紅葉と温泉を楽しむ)

●日 程：11月4日(火)～7日(金)

●参 加 者：L中村 SL木下 春本 村上

●行動記録：

(5日)：大分港(6:20着)6:50発→由布岳登山口(8:00着)8:15発～合野越(9:10着)

9:15発～マタエ(10:50着)11:00発～由布岳西峰(11:25着)11:55発～由布岳東峰(13:00着)13:35発～マタエ(13:50着)14:00発～合野越(15:00着)15:10発～由布岳登山口(16:05着)16:20発～陽光荘(16:45着)

(6日)：陽光荘 9:00発～大平山登山口(9:30着)9:40発～大平山山頂(10:50着)11:00発～～へびん湯(12:05着)12:40発～甘味茶屋(13:00着)13:50発～臼杵石仏(15:00着)16:10発～大分港(17:30着)19:20発

## ◆大・ダイ・だーい満足の大分県

春本

紀行の醍醐味は、天候良く、アクセス良く、食べ物良く、山が良く、温泉良く、出会う人良く、体調良く。。七拍子揃うこと。今回はそれが実現できました。

2年まえのミヤマカリシマの久住山へ向かうやまなみハイウェイで麓から観る由布岳の印象が強烈で申し込みを決意しました。



六甲アイランド発のさんふらわあは一晩で快適な船旅、神戸空港の発着飛行機や明石大橋をくぐり、熟睡だったので瀬戸大橋はパスしたが朝5時前の甲板から観たしまなみ海道と星座群は写真で撮るより肉眼で楽しめる。

大分港から現地レンタカーで登山口へ、山頂方面はガスっていて曇りだったが…

登山者もまばらで外国人が多く、登っているうちに鹿の数が人の数を上回り、順調に高度を上げ稜線のマタエに到着。そこから西峰へ、都合よくガスの中なので恐怖感は小さい。今年はこうも鎖場の山ばかりなのかと自問しながら西峰頂上は青空の下に雲海で遠方は見えるわ火口は丸見え、下界の街並みや高速道路と高い山々が絶景！

ここから時計回りに東峰へ、登山口で地震警報があったぐらいだから、崩れ岩やそこ抜けた地面を廻るのです。危険カ所数カ所渡歩やり切った。それもこれも景色の良さが後押しする。

雲海の上へ出れば錦絵と言っていい紅葉の世界、赤、黄、橙、緑のバランス良し。

ここで出会ったのが白馬から来た山岳ガイドさんと山小屋経営者の二人。二人は、霧島で知り合って車で巡っているそうだ。先行していただいたが早くて見失ってしまう。

由布院からの外人さんの数十人と会うが単独での登山が多い。私たちは、怖くて西峰からピストンで降りる人も見える東峰頂上に到着。ドイツから長期休暇で来ている男性とコミュ。

別府の宿の鉄輪はスーパーで夕食の買い出しをして蒸し窯で調理、米を忘れた自分は人並み以上食べて申し訳ないことをした。

フェリーで晩と朝、別府で晚朝、外湯も巡り露天風呂まで10回ほど湯につかって満足し、翌日は3名が計画どおりの太平山へ、地元のシンボルでゲレンデ状の急登を昼頃頂上に着く。そこを往復している地元の方から情報をいただいた、次のへびん湯の道筋や内山と言って鶴見岳や由布岳の連峰の始まりでシャクナゲの群生などなど。

K下さんがロープウェイで鶴見岳へ行き、へびん湯まで迎えに来てくれるまで四つの露天風呂を楽しむが、そこで常連男性がfreeチンでオオスズメバチ退治はビックリ！

その御仁から昼の甘味処での鳥の揚げ物と団子汁の郷土料理を紹介してもらい舌鼓。



フェリーまでの時間で臼杵石仏を見学する。一度行ってみたい処だったが想像していた大きさが小さめでした、そこも外人さん率高めでした。

費用以上のコスパで満足度の成功は、屋台骨となるしっかりした計画でメンバーを信用して提案を受け入れてくださるN村リーダー、会計料理はM上さんに任せれば万全、お米の提供や通訳のK下さん感謝します。

次回は自分が運転しますありがとうございました。



## ■高森ボランティアの報告

●日 程：11月15日（土）

●参 加 者：阿久津 内海 岡田（郁） 小野 佐野 砂川（延） 野村 春本 福原 三木（悦）

森下 森本

### ◆市ノ池公園で草刈り作業

砂川（延）

高森ボランティアは暑い時期は避け、毎月、第3土曜日に作業場所を設定、主に近郊の山の登山道での草刈り作業を中心に行っている。

当日は、みどりの相談所前・午前9時に集合してストレッチ、作業現場の市ノ池公園周回路へ移動、周回路と周回路をつなぐ迂回路で、登山道の草刈り作業を行った。

周回路は最近、周回路の整備と熊対策で斜面の草刈り作業が行われており、当日も市ノ池公園の担当者の方が駐車場近くの馬の背・尾根筋の斜面で草刈り作業を行っていた。

草刈り作業としては短い距離でしたので、作業としては10時前には終わり周回路を伝ってみどりの相談所前へ帰った。